

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1072300229
法人名	有限会社 彩華舎
事業所名	グループホーム さいか
所在地 (電話番号)	群馬県 多野郡 吉井町 大字 矢田 669 (電 話) 027-386-0088
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市大友町2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成20年8月6日

【情報提供票より】(20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 8月 6日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
	利用定員数計 18 人 常勤 11 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 11.4 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木 造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立藤岡総合病院 田路クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれた地に施設は設置されている。交通の便もよく、分りやすいところに立てられている。周りには畑が広がり、会計事務所が隣にある。管理者は近隣との付き合いを心がけている。地域の中で生活をする事の実践として、近隣の人達と花植えなどを行っている。少しずつ地域との関係が構築されている。外出への心配りに注意をしながら散歩等を行っている。外気に触れ、季節感を味わう支援を行っている。また、駐車場や広場を利用して、利用者とお茶飲み等を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型としての理念は、文書に明示されている。評価の意義と理解と活用は職員から意見を聞き行っている。市町村との連携では管理者は役所に出向き情報の交換を密に行っている。また地域の施設とも電話などで連絡を取り合っている。日常的な外出支援は職員が散歩などを取り入れ外気に触れる機会を多くしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に意見を聞き、会議等に向け全員での共有を図りながら行った。しかし職員の異動などがあり、まだ共有がされていない部分がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催されており、地域の人達も参加している。参加者は区長、民生委員、老人会、家族、町職員と管理者などである。管理者は地域との関係を大切にしており、関係が運営に反映されつつある。また地域の行事では花を植えるなどの奉仕活動に積極的に参加している。防災訓練も地域に働きかける予定がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者は「苦情」をホーム運営上大切なものと捕らえている。家族に対しては常に意見の言い易い雰囲気作りやアンケートを取り、意見の吸い出しを実践している。ホーム便り「はな便り」を定期的に発行している。「はな便り」により利用者の状況を家族に知ってもらっている。また面会時にも健康状態等話し合っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入をしており、地域の活動に参加している。花植えなど奉仕活動にも参加している。管理者は地域との関係を大切に考えており、散歩時の声掛けなど良好な関係が築かれつつある。また近くの小学校に利用者の作品を届けるなどしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	改めて理念の手直しは行われていないが、すでに地域との関係を築きつつあり、理念の中にも地域との関係性を謳っている。管理者は地域の人たちとの交流をこれからも積極的にやりたいと計画をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰でも見やすいところに掲示されている。また管理者は職員に対して、入職時や会議などで理念について話し、その共有の大切さを説明している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との連携を深める努力をしている。地域の清掃事業などにも参加し情報を得ている。またそれが地域への活動参加に結びついている。利用者にも参加してもらい近隣への関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の異動などがあり十分な説明が行われていない。今回の報告は管理者が作成している。	○	職員の異動もあり職員間では十分共有されていない。しかし、管理者は評価の意義を理解しており職員への共有を図りたいと考えている。これからの取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は地域との連携が重要であることを認識しており、運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。そこで地域の人との交流と行事などの情報を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は積極的に行政と連絡を取り、施設との情報を交換している。またボランティアの紹介などの依頼を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「はな便り」を1ヶ月毎に家族に郵送している。利用者の行事、日々の生活の場面などの写真が掲載されている。作成した職員のコメントも載せられている。家族が面会に来た時にも職員は健康状態など説明している。また状況の変化があった時などは電話で家族と連絡を取り合っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者は家族の意見を聞くことは施設の運営に大切であると考えている。家族アンケートをとり、家族の要望の把握に努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動があり管理者は新しい職員のために工夫を行っている。一人のフリーの職員を設けて、職員、利用者への対応をしている。職員教育にも力を入れている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修を大切にしている。事業所での研修もあり研修委員会を作って排泄・食事など独自の研修を行っている。地域密着型連絡協議会にも参加している。交換研修も行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型連絡協議会に加入している。研修も参加をしている。交換研修も行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に施設を見学してもらい、納得をして利用に結び付けている。職員は会話などに注意をして、早く馴染の関係を築けるよう支援している。入所希望者には気軽に遊びに来てもらい、納得した入所ができるよう家族にも説明をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の今までの職業や趣味などを生かした支援を心がけている。職員は利用者が身につけた技術、慣習などに先輩としての敬意を払いながら共に生活を支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通して本人の意向を確認している。また家族からも情報を得ている。本人からの意向が確認できない場合は体調、表情などを見ながら察知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族及び本人の意向は担当の職員が把握をして事前に計画書を作り提案している。会議はその提案を基に他職種の職員と話し合われて、意向に沿った計画の作成がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しと常態の変化があった時の見直しはされているが、毎月のモニタリングはされていない。	○	見直しは変化が生じた時と毎月のモニタリングが行われていくことにより、利用者の意向の実現が図れるので、月に1度のモニタリングを行い、よりきめ細かなその人らしい計画の実践を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の希望に応じて美容院、買い物などの同行支援を行っている。また家族が対応できない場合などは相談に応じている。事業所として柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居した時に今までの主治医の確認をしている。施設は出来るだけ今までの主治医での継続された受診を支援している。家族の了解を得て病状によっては協力病院の主治医に変更をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より重度化した時の対応について説明を行っている。家族と同意書を交わしている。管理者は家族の希望を出来るだけ受け止めた支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はプライバシーについて職員と常に話し、教育をしている。入職時に職員は利用者のプライバシーを守る誓約書にサインしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活の仕方に配慮した支援を行っている。起床時もその人に合わせながら食事の時間を取っている。施設内でも自由な活動が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の準備から利用者は職員と一緒に作業に参加されている。また後片付けを手伝っている。メニューは利用者の希望が季節料理などで取り入れられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行われている。利用者の希望した時に柔軟な対応が来ている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として洗濯物たたみ、草むしり、洋裁、掃除などがある。また楽しみや気晴らしの支援としてその人に合った趣味などが取り入れられている。ドライブ、ゲーム、散歩、誕生会など用意されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の中から出て外気に触れる事を楽しんでもらう支援をしている。散歩には車椅子の人を利用者の人に押ししてもらい出掛けている。また中庭での会話、お茶飲みなどある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかける事の弊害などを理解しているが、事故の経験から鍵を日中も掛けている。	○	道路に面した広いスペースを改修している。利用者にとって外気を浴びたり、季節を感じられる場所を確保し開錠に向けての検討がされている。工夫を行い開錠できる事を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回避難訓練、消火訓練を行っている。	○	予想のつかない災害への対策は利用者の安全にとって重要なので消防署や地域の人達の協力を得る準備をお願いしたい。地域との関係が出来つつあるので、管理者は運営推進会議や地区の共同活動などの時に協力体制への依頼を続け、実現を期待している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量がパソコンで記録されている。食事の摂取量は利用者全員確認できた。	○	水分摂取は利用者の体調の変化を起こしたり精神状態の変化を引き起こす事もあり、利用者には大切な事なので、記録の共有、摂取量の把握に工夫をしてもらいたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を中心とした回廊式に作られた建物なので廊下からは中庭を通して季節感が味わえる。共用空間にはテーブル、椅子などがありテレビを見たり台所の料理の香りなどを味わうことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理ダンス、椅子、写真、利用者一人ひとりの生活の延長が感じられるものが持ち込まれている。利用者が安心して生活できる環境が提供されている。		